

淡墨を使用した「少字数書」の美の表現を探求し、海外展にも意欲的に出展するなど、書の啓発と普及に尽力してきた。特に代表作となる2曲屏風「童心浄土」は、その美術性の高さにより国際芸術遺産認定を受け、国際的にも高く評価を得ている。また、函館市に新大学を創設する市民運動を興し、「公立はこだて未来大学」の開学に結びつけたほか、世界的数学者、広中平祐氏と提携し、国際的な学者を招きセミナーを開催するなど、地域の教育向上にも大きく貢献している。

## ◎ 受賞者の主な略歴

- S21 中学校の教諭となる。  
(～S18、夜間中学在学中に教員免許を取得)
- S23 全日本書道展(現・毎日展)入選
- S25 日本書道美術院展褒状主席
- S27 毎日書道展「秀作賞」
- S34 北海道書道展(道新主催)に依嘱作家推挙(後、審査員歴任)
- S35 毎日書道展会員推挙(後、審査員歴任、現参与会員推挙)
- S49 函館市文化賞
- S52 函館市文化団体協議会会長推挙(～S53)  
北海道文化団体協議会「文団協賞」  
パリ・日本書展出展(於・パリ、サンタンヌギャラリー)
- S55 北海道新聞社文化センター講師会会長就任(現、顧問)
- H 9 南北海道創才教育推進会会長(～現在)  
(数学オリンピック委員会と提携し、科学分野の英才教育推進)
- H11 函館市文化団体協議会顧問(～現在)
- H21 紺綬褒章下賜

